

令和2年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属中・高等学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価	
学校運営	学校運営	中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】	①中等教育に係る研究組織体として、研究組織と校務分掌組織との連携性を確認、強化して、研究と運営の連動性を図る。教育ビジョンを意識した、教育活動、研究活動を行う。 ②業務効率化、労働時間適正化を図り、運営体制を構築する。	①学校経営上の各事業をPlan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)サイクルの可視化をもって遂行する。 ②学校運営全般にわたる業務の効率化について検討、業務を精選し、課題共有と解決に努める。	①中等教育に係る研究組織体として、研究組織と校務分掌組織との連携を行い、各分掌、学年、教科において具体的な行動計画を設定し、実行、評価、改善をすすめた。 ②コロナ禍における課題の共有、解決に向けて校内組織が共有され、その解決に向けて校内組織がより機能している。現状下で最大限の学校運営上において努力・工夫されている。	A	A	①中等教育に係る研究組織体として、教育研究と学校運営の連動について一層の強化を図る。 ②運営委員会を中心としてコロナ禍における課題の共有と解決に向けて取り組み、学校運営の改革を推進する。	
	人事	中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】	①教員研修プログラムを策定して交流人事や教員研修の機能を高め、教員の職能成長を推進するモデルを示す。	①公立学校からの現職教員長期研修受け入れおよび人事交流によって、教員研修を推進する。本校教員も海外等での研修に参加する。	①広島県教育委員会をはじめ、他県から人事交流により教員を受け入れ、法定研修以外にも学校内外での研修を推進し、ミドルリーダの育成をはかっている。	A	A	①学校運営の現状を踏まえて教員研修プログラムの策定と推進を行い、人材育成がなされている。	
	広報	中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】	①ホームページやパンフレット等を利用して本校の教育・研究活動の広報を行う。 ②学校広報に努め、入学希望者の増加を図る。	①教育実践の成果を教育研究大会の開催、また、SSH研究開発の成果を事業成果報告会の開催、及び刊行物やホームページで公開などを通して広く発信、提供する。 ②学校案内、学校要覧等の年度更新に加えて、学校刊行物を公開し、広報資料の充実を図る。	①SSHの実践をはじめとして、授業実践事例集を学校Webページで公開し、研究成果の活用促進を図っている。学校Webページへのアクセス数は広島大学内でも有数で、この1年間で、SSHトップページへのアクセス数が年間7,500件超、SSHディレクトリへのアクセス数が10,000件超、中でも課題研究テーマ一覧が6,600件を超えている。 ②学校説明会は開催できなかったが、学校刊行物を公開し、広報資料を充実させた。	①教育実践の成果を学校Webページに公開する等SSH研究開発の成果、および刊行物の広報活動が充実している。また、学校Webページへ教育研究大会の公開授業等の「授業実践事例」等が掲載され、実践研究の成果が広く提供されている。②学校説明会の開催方法について、オンラインを用いた工夫によりできる限り行われている。	A	A	①学校Webページを通して研究開発の成果を継続して公開する。他校でも授業実践できるようにするための資料もあわせて授業実践事例として掲載し、研究成果を活用できるように努力する。 ②学校説明会の開催方法についてオンラインのさらなる工夫により、広報活動の充実を図る。
	PTA等の諸組織との連携	中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】	①PTAと緊密に連携し、教育環境の充実を図る。 ②教育後援会との連携により教育環境の改善を図る。	①PTAやPTA連合会行事に協力し、保護者と教員の研修を深める。 ②教育後援会役員会に出席して教育環境の充実を目指す協議と予算執行を進める。	①コロナ禍の特異な状況下であることから、逆転の発想で、全国国立大学附属学校園PTA連合会研修会は、全保護者への視聴案内を行い、今日的な教育課題について多くの保護者、教員がオンラインによる研修を行った。 ②教育後援会と連携して、コロナ禍で特に必要となったものについて慎重な協議のもとで予算執行し、教育環境の改善に努めている。	①コロナ禍において活動を自粛し行事の変更や中止を余儀なくされる中であつたが、PTA研修会はオンラインを効果的に利用することで、全保護者へ研修の機会が得られた。 ②中庭にベンチを設置するなど、密を避ける感染防止対策のための予算執行が適正に行われ、ソーシャルディスタンスの取れたコミュニケーションをとることができている。	A	A	①コロナ禍ではあるが、オンラインを用いた工夫により、PTAと学校との連携を一層強化して、保護者と教員との研修を深める。 ②教育後援会との協議を定期的に行い、教育環境の改善をはかることができるよう支援を受ける。
教育活動	学習指導	中期計画【グローバル人材に求められる資質・能力を育成する教育課程及びその評価方法を開発する。】	①学習活動を充実させ、目標の達成度を適切に評価し、学習指導研究などを展開する。 ②グローバル化に対応した教育推進を通して学力向上を図り、資質育成と進路実現を支援する。	①教科指導を充実させ、課外指導も実施して学力を向上させる。 ②大学や地域、アカシア会の協力を得て、現場体験学習やキャリア講座を充実させる。	①学習指導を充実させ、生徒・保護者から高い評価を得ている。国際数学オリンピック(ロシア大会)で銀賞受賞(昨年、一昨年は2年連続銅賞)の世界レベルで高評価の生徒を輩出したほか、多くの生徒がSSH課題研究で優れた評価を得ている。 ②アカシア会の絶大な協力によりキャリア講座を実施し、生徒のキャリア意識を向上させた。	A	A	①体校中の授業不足分は、夏休みを短縮したことにより補われた。また、SSH課題研究の成果、深まりにより、着実に主体性のある高度な能力の育成がなされている。今後は多様性に応じる教育が求められる中、一斉授業だけでなく、個別指導が必要と思われるため、教員数の十分な確保が求められる。 ②キャリア教育について、アカシア会等の協力がなされ、進路実現に向けた取り組みの充実が見られる。	
	生徒指導	中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】	①自由・自主・自律を校風として生徒の自覚を高め、生徒会活動の充実を図る。 ②生徒会活動、生徒指導を通じて、社会的ルール遵守や規範意識を促す。	①生徒が主体的に活動する学校行事・生徒会行事を支援する。 ②生徒会組織を活用し、外部機関にも協力を求めて生活指導を推進する。	①コロナ感染症流行の影響のため体育祭は中止したが、感染症拡大防止対策を講じたうえで、文化祭などの学校行事は新しいスタイルを工夫して実施し、生徒主体の企画運営を支援した。 ②全学年、全生徒を対象としたSNSに関する講話を通して、社会的規範意識を向上させた。	A	A	①感染症対策を講じて新しい形の学校行事を支援することで生徒会活動の充実を図っている。 ②全学年にSNSに関する講話を行い、社会的なルール遵守、規範意識向上の指導を行っている。	
	保健指導	中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】	①心身ともに健康な学校生活の実現を図る。 ②チーム学校として、心身に課題を抱える生徒を支援し、生徒の健全な人間観を育成する。 ③清掃活動を充実させ、校内美化の向上と美化意識の高揚を図る。	①保護者、学校医やスクールカウンセラー、外部専門機関との連携を強化した生徒相談を充実させる。 ②校内研修会を開催し、学校全体で支援体制を共有するとともに綿密な対応策を講じる。 ③生徒会組織を活用した保健指導、及び主体的な清掃活動、環境美化活動を推進する。	①学校医、スクールカウンセラーと教職員との連携を密にとり、休校期間中も含めてきめ細やかな相談活動に取り組んでいる。 ②単位認定にかかわる内規も生徒支援の観点から見直し、校内研修や生徒情報交換の機会を増やすようになった。 ③保健委員会の活動等でもコロナ感染症拡大防止の意識づけを行い、生徒が主体的に活動できるよう努めた。	A	A	①スクールカウンセラーとの連携を強化した組織的な対応により、生徒一人ひとりが心身ともに健康な学校生活を送ることが出来るよう生徒相談を充実させる。 ②チーム学校として、心身に課題を抱える生徒の学校生活を支援する。 ③生徒会を活用してコロナ感染症拡大防止の意識づけを行い、生徒が主体的に活動できるよう努める。	

注)  太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。

令和2年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属中・高等学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策																	
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価																		
教育実習	教育実習	中期計画【教育実習生に、グローバルマインドを育成する指導法や新たな学びの方法の指導方法に関する指導事例を纏めて共有化する。インターンとして大学院生を受け入れた成果を検証する。】	①教科指導力、授業力を育成するとともに適切に評価し、その分析に基づく実習指導研究を展開し、指導の改善を図る。また、グローバルマインドを育成する指導方法、及び新たな学びの方法を備えた教員を養成するための指導計画を構築する。 ②大学との連携・協働し、教育実習生の課題を大学と附属間で共有する方策を検討する。	①教科指導を中心に実習の充実を図り、また先進的・先駆的な教育活動やグローバル化に対応した教育活動を通じて新しい学びの指導方法を習得させ、高い達成感が得られるようにする。 ②教育実習生の成果と課題を検証し、大学との連携・協働の実質化に向けて、具体的方策を提案する。	①②コロナ禍で期間短縮など特別な状況下であったが、教科指導について98.9%の実習生が満足と回答、99.6%の実習生が教科指導力が向上したと回答するなど、高い達成感のある実習を行っている。また、数学と理科では、英文での指導案も作成指導し、グローバルマインドの育成を図った。教職大学院アクションリサーチ実地研究においては、教科指導、生徒指導、学級経営などの指導も行き、優れた教員の輩出に協力した。	A	①②コロナ禍にもかかわらず、ほとんどの実習生が満足感、達成感を感じていることを評価したい。実習生の課題を明確につかみ、大学と共有し力を合わせて高い使命感と生徒愛、教育への情熱にあふれた人格の育成を図ってほしい。	A	①②教育実習生の教科指導力、授業力向上を図るため、大学と協力して教育実習指導の方法や評価方法について教育実習指導研究を展開し、教育実習指導の改善を図る。また、グローバルマインドの育成を図る指導方法を習得させるための実習指導について検討を行うことを通して、グローバル化に対応した教員養成に貢献する。																	
										研究開発 (スーパーサイエンスハイスクール)	中期計画【グローバル人材に求められる資質・能力を育成する教育課程及びその評価方法について、成果と検証を行い、必要に応じて指導方法及びルーブリックを改善する。】	①SSH第4期3年次として、研究課題「社会に開かれた科学技術を先導する人材育成」の基盤となる学校設定教科「SAGAs」の成果と課題を抽出する。 ②広島大学高大接続・入学センターの協働により、高大接続プログラムを進めるとともに、AP(アドバンス・プレイズメント)実施の効果を検証する。 ③第4期SSHにおける「課題研究協働プログラム」を進める。	①学校設定教科「SAGAs」の各科目の年間指導計画、授業教材、評価基準・評価指標(ルーブリック)等の効果を検証する。 ②広島大学高大接続・入学センターの協働を受け、AP(アドバンス・プレイズメント)実施の効果を検証する。 ③第4期SSHにおける「課題研究協働プログラム」を進め、実地の効果を検証する。	①SSH第4期3年次として、学校設定教科「SAGAs(探す)」を中核とした研究開発を進めた。中間評価において、実施の効果の検証に基づきSSH研究計画進捗状況の報告を行った。その結果、文部科学省より6段階評価のうち、最上位評価の2校(今年度対象の49校中)の高評価を得た。 ②高大接続・入学センターの支援により、今年度は広島大学アドバンス・プレイズメント(AP)を開始して、教養教育科目の3科目をオンデマンド・オンライン形式で実施し、延べ55名が受講、延べ39名単位取得に至った。 ③新型コロナウイルスの感染拡大の影響により計画の見直しが必要となったが、オンラインの利用を生かし、研究発表、海外連携校との「課題研究協働プログラム」を進めた。	A	①②SSHで3年間学んだ生徒が自らの能力向上と達成感を実感して巣立っていることが素晴らしい。また、国の中間評価においても最も高い評価を得ている。「ほんもの教育」が日々実践されている証であるように思う。コロナ禍で中止せざるを得なかった取組も多かったことと思うが、強い目的意識をもって、工夫を重ね成果をあげられていることに敬意を表している。是非とも「広大メソッド」の完成を期待している。 ③SSH海外連携校との研究交流をオンラインで計画し、従来のプログラムを継承されている。今後も交流を続けて欲しい。	A	①③SSH第4期4年目において学校設定教科「SAGAs」について開発教材の具体例や評価の具体例について積極的に公表する。また、「課題研究」の指導・評価方法に関するこれまで3年間の成果物を教師用「課題研究指導書「広大メソッド」として整理し、「広大メソッド」を用いて全教員が課題研究の指導をすすめる効果検証を行い、汎用性を高める。 ②高大接続プログラムに関して広島大学によるAP(アドバンス・プレイズメント)をさらにすすめて、高大接続のモデルを実践的に研究し、高大連携の実質化を促進する。								
																			中等教育研究 開発	中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】	①次期学習指導要領を先取りした各教科ならびに通教科的な教育研究実績を積み上げ、研究開発を推進する。 ②教育研究大会を開催し、全国の教員に実践研究の成果を提供する。	①②研究主題「『学ぶ』から『探す』」へ一中・高6か年の「学びの地図」(第2年次)を設定。各教科ならびに通教科的な視点から「学び」と「探究」のつながりを意図した教育実践に取り組み、その成果を広く発信、提供する。	A	①②各教科ならびに通教科的な視点から「学び」と「探究」のつながりを意図した教育実践に取り組み、その成果を広く発信してきた。コロナ禍により教育研究大会一般公開を取り止めたが、大学教員、広島県教育委員会指導主事の参加を得て開催し、その研究成果はホームページで広く発信している。	A	①②複数年度にわたる教育研究テーマを設定し、教育研究大会での公開授業や研究発表等を通して、10年後の学習指導要領改訂を先取りした各教科ならびに探究学習等の通教科的な教育研究実績を積み上げ、全国をリードする研究開発を推進する。
グローバル教育 推進 ユネスコ教育	中期計画【グローバル人材に求められる資質・能力を育成する教育課程及びその評価方法について、成果と検証を行い、必要に応じて指導方法及びルーブリックを改善する。】	①ユネスコ・スクールに係る教育活動を軸に、国内外の機関と連携をして、国際的に活躍する生徒の育成を図る。 ②SSH、SDGsに関わる教育を研究・推進し、持続可能な社会を先導するためのカリキュラム開発を推進する。	①生徒のユネスコ活動等を支援し、グローバル・コンピテンシーの育成を推進する。 広島大学、広島県国際課や教育委員会等とも連携する。 海外からの学校訪問には積極的に応じて交流を図る。	B	①②コロナ禍で活動の多くが縮小や取りやめとなったが、国内外の機関と連携して途上国への支援活動を行ったり、状況に合わせてユネスコ活動を支援している。海外連携校との課題研究協働プログラムによる海外の科学的に探究する力やコミュニケーション・プレゼンテーション能力の伸長を図った。	A	①ユネスコ委員会やユネスコ班、個人での活動も引き続き支援し、ユネスコ・スクールとしての学校での実践も行う。 ②グローバル・コンピテンシーの育成を進めるため、改善を図りながら対面とハイブリッドによる海外連携プロジェクトの具体的方策を精査する。ユネスコ・スクールに係る活動、SDGs活動をさらに推進し、本校におけるグローバル化に対応した教育の思想及び構造を策定し、成果を発信する。																			
								国際交流	中期目標【グローバル人材に求められる資質・能力を育成する教育課程及びその評価方法について、成果と検証を行い、必要に応じて指導方法及びルーブリックを改善する。】	①教職員、生徒の海外研修、海外学校との交流事業計画を策定し、チーム学校としてグローバルマインドの高揚を図り、成果を発信する。	①グローバル教育を推進し、海外研修プログラムをより改善して実施する。 広島大学、広島県国際課や教育委員会等とも連携する。 海外からの学校訪問には積極的に応じて交流を図る。	B	①コロナ感染症拡大の影響で学校主催海外研修は中止し、SSH事業の海外研修、訪日研修も取り止めた。韓国やタイ王国等のSSH海外連携校との研究交流は、オンラインの形態で交流プログラムを計画し、充実した従来のプログラムを継承している。	A	①感染症の中においてこれまでの取り組みとは異なった取り組みを余儀なくされていると思うが、教育界も今回の経験を活かして、新たなスキームにシフトすることによってこれまで以上の成果が上げられる場面もあると思われる。改革前進のチャンスと捉えるような取り組みを期待している。											

注)  太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。